

令和元年度
和歌山市立博物館館報

No. 35

館報 35号 目次

I 事業概要

1. 展覧事業

常設展示	2
春季企画展	2
夏季企画展	6
夏季特別展	8
秋季特別展	11
冬季企画展	17
ホール展示	17
特集展示	18
コーナー展示	18

2. 教育普及事業

史跡散歩	18
体験学習	18
講座等	19
回想法プログラム	19
博物館実習	20
ミュージアムボランティア	20
職場体験	20
ウェブサイト	21

3. 調査研究事業

職員の執筆文献	21
職員の教育普及活動	22

4. 市史資料管理事業

5. 博物館基本計画（素案）の作成

II 収蔵資料概要

1. 購入資料概要	24
2. 受贈資料概要	24
3. 資料の貸出	24
4. 映像資料概要	25

III 令和2年度博物館当初予算

IV 資料

入館者の動向	27
アンケートの集計	29
館機構	30
博物館職員	30
和歌山市立博物館協議会委員名簿	30
和歌山市立博物館条例	31
和歌山市立博物館条例施行規則	35

I 事業概要

1. 展観事業

○常設展示

1階の常設展示室(約1,012㎡)では、「資料が語る和歌山の歴史」をテーマとして、原始・古代・中世・近世・近代・民俗の6つのコーナーに分け、それぞれに関連資料を展示している。

各コーナーでは、随時資料の展示替えを行っているほか、民俗及び近世コーナーの一部の展示ケース2か所を利用して「コーナー展示」を定期的実施している。

○春季企画展

「写真にみる和歌山市の歩み 1889-2019」

〈開催期間〉平成31年4月27日(土)

～令和元年6月9日(日)

〈開催日数〉39日間

〈入館者数〉2,413人

〈開催趣旨〉

平成31年は、和歌山市が市制を施行して130年の記念の年にあたります。その間、和歌山市は様々な経験をしました。和歌山市ができた頃は、まだ江戸時代の雰囲気が残る時代でしたが、西洋文化の流入に伴い、社会は急速に変化していきました。やがて街にはちんちん電車が走り、百貨店や映画館なども建ち、和歌山市は目に見えるかたちで発展していきました。しかし、昭和20年の和歌山大空襲によって、市民生活は大きな打撃を受けました。和歌山市はこの悲惨な状態から復興を遂げ、戦後再び発展していったのです。本展では、和歌山市が歩んできた130年の道のりを今に残る写真で振り返ります。

〈展示構成〉

- 1 明治大正期 和歌山市の誕生 近代社会の展開
- 2 昭和初期 にぎわう和歌山 戦争の時代
- 3 昭和中期 戦後の復興 高度成長
- 4 昭和後期～平成期 きらり輝く元気な街へ

〈古写真上映会〉

5月11日(土) 14:00～15:00

「写真にみる和歌山市の歩み」

〈フィルム上映会〉

5月25日(土) 14:00～15:00

「市電・黒潮国体」

〈展示解説〉 各 14:00～15:00

5月4日(土)・6月1日(土)

※いずれも14時～15時

春季企画展
写真にみる
和歌山市の歩み
1889-2019

開催期間: 開催日(4月27日-5月6日)開催日
5月11日(土) 14:00-15:00(写真にみる和歌山市の歩み)
5月25日(土) 14:00-15:00(市電・黒潮国体)
6月1日(土) 14:00-15:00(市電・黒潮国体)

和歌山市立博物館 Wakayama City Museum
http://wakyama-city-museum.jp 〒640-8222 和歌山県和歌山市東本町2-2 TEL. 073-423-0933

2019年4月27日(土)～6月9日(日)

〈出品目録〉

1 明治大正期

和歌山市の誕生

1	人力車	
2	和歌山城下町絵図(複製)	
3	和歌山大区小区地図	明治6~7年
4	和歌山区史	明治11年

5	長屋喜弥太写真	
6	市制施行文書	明治 22 年
7	加藤市長時代の和歌山市幹部写真	明治末
8	西の丸市庁舎	大正 4～昭和 11 年
9	和歌山市役所 1	大正 4～昭和 11 年
10	和歌山市役所 2	昭和 11～51 年
11	和歌山市庁舎新築記念	昭和 12 年
12	市議会場にあった演台	

近代社会の展開

13	県庁	明治 21 年以前
14	和歌山警察署	昭和初期
15	和歌山地方裁判所	明治 40 年以前
16	郵便局	明治後期～大正
17	通信案内	昭和 11 年
18	和歌山市公会堂	大正 9 年
19	和歌山紡織	大正 4 年ころ
20	四十三銀行	大正期ころ
21	琴ノ浦火力発電所	大正 11～昭和 5 年
22	製塩工場	明治 43 年以前
23	和歌山駅（現紀和駅）	明治後期
24	紀ノ川鉄橋	明治後期
25	和歌山市駅	明治後期
26	市電	明治 42 年
27	和歌山電車唱歌	明治 42 年
28	市電 1 形模型	
29	和歌山電車沿線案内パンフ	大正 15 年
30	和歌山口駅	明治 44 年
31	沿線御案内加太電車	昭和 11 年
32	始成小学校 明治 6 年創立	昭和 7 年撮影
33	和歌山市立第一高等小学校	明治 45 以前
34	和歌山県立和歌山中学校	大正 8 年
35	和歌山県立和歌山高等女学校	
36	和歌山県師範学校	大正 14 年
37	測候所	昭和 2 年

38	図書館	明治後期～大正
40	愛の大和魂	昭和 17 年
41	和歌山県商品陳列場	大正 10 年？
42	電気館	明治 43 年
43	元寺町	明治 42 年
44	上水道給水	大正 14 年
45	和歌山市上水道概要	大正 14 年
46	水道管	大正 12 年
47	公設市場	昭和 5 年
48	メーデーデモ	大正 14 年

2 昭和初期

にぎわう和歌山

49	京橋竣工	昭和 5 年
50	和歌山ガスと丸正百貨店	昭和 12 年以降
51	国勢調査記念品（丸正百貨店製）	昭和 10 年
52	高島屋上遊戯場	昭和初期
53	ぶらくり丁	昭和 4 年以降
54	万市場	昭和初期
55	元寺町	昭和初期
56	紀国座プログラム	昭和 9～11 年
57	東ぶらくり丁	昭和 3 年
58	食堂内部	昭和元年
59	花街	昭和 3 年
60	内町西地区模型	昭和 12 年ころの様子
61	阪和東和歌山駅 1	昭和 5 年
62	阪和東和歌山駅 2	昭和 5 年以降
63	阪和電鉄沿線案内図	昭和 5 年
64	新和歌浦 名所交通鳥瞰図	昭和 2 年
65	妹背山と紀三井寺	昭和初期 和歌浦・紀三井寺合併
66	新和歌浦旅館街	昭和初期
67	南海遊園	昭和初期
68	望海楼パンフレット	昭和初期
69	和歌浦各種パンフレット	昭和初期

70	新和歌浦観光案内冊子	昭和初期
71	和歌浦漁港	昭和8年

戦争の時代

72	防火訓練	昭和10年前後
73	戦争ごっこ	昭和10年前後
74	写真撮影	昭和10年前後
75	和歌浦国民学校	昭和10年前後
76	勤労奉仕	昭和10年前後
77	湯たんぽ	昭和初期
78	金属類非常回収計画	昭和18年
79	防空頭巾	昭和初期
80	防衛食	昭和初期
81	慰問袋記録	昭和初期
82	慰問袋	昭和初期
83	和歌山県勤労報国隊整備資料(大政翼賛会資料)	昭和18年
84	警報御注意	昭和10年代か
85	町内会備品簿	昭和18年
86	町内会備忘録	昭和18年~20年
87	海軍志願兵徴募ポスター	昭和19年ころ
88	戦災写真	
89	戦災写真	
90	戦災写真	
91	戦災写真	
92	新町線道路	昭和30年前後
93	和歌山市勢要覧	昭和25年
94	市駅・西浜・新和歌浦線道路	昭和37年以前
95	嘉家作り・和歌浦線道路	昭和35年以前
96	中之島ロータリー	昭和31年ころ
97	南海橋	昭和25年前後
98	堀詰橋	昭和30年以前
99	城北橋	昭和30年以前
100	和歌山市の面積増加状況(S25市勢要覧)	昭和24年度
101	和歌山市の人口推移状況	昭和24年度

	(S25市勢要覧)	
102	昭和24年度当初予算(一般会計)(S25市勢要覧)	昭和24年度
103	鳴神団地	昭和32年以降
104	岡崎団地	昭和38年以降
105	わが街の施設あれこれ	昭和33年
106	高島屋	昭和25年前後
107	本町2丁目	
108	ぶらくり丁1	
109	ぶらくり丁2	昭和32年ころ
110	自由市場	昭和30年代前半
111	家屋取り壊し	昭和30年代後半

3 昭和中期

戦後の復興

112	税金の種類(S25市勢要覧)	昭和24年度
113	業種別工場数(S25市勢要覧)	昭和24年度
114	目で見る市政	昭和38年ころ
115	和歌山市駅	昭和40年ころ
116	和歌山市駅構内	昭和32年
117	東和歌山駅	昭和40ころ
118	東和歌山駅構内	昭和40年ころ
119	市電内部	
120	和歌山軌道線案内図	
121	車掌腕章	
122	切符	
123	方向板	
124	和歌山城再建1	昭和33年
125	和歌山城再建2	昭和32~33年
126	和歌山城再建について(パンフレット)	昭和31年
127	和歌山城再建ポスター	
128	和歌山城竣工記念記念行事表	
129	入場券	

130	和歌山城模型	
131	生活の様子	昭和30年前後
132	電話のしおり	昭和30年前後
133	市民の生活 (S25 市勢要覧)	昭和24年度
134	溝掃除	昭和33年
135	たらい、洗濯板	
136	電気こたつ	
137	炭火アイロン	昭和20年代
138	自転車鑑札	
139	氷冷蔵庫	
140	検診	昭和29年
141	ナポリ号	昭和30年代
142	プール	昭和30年
143	こども1	昭和25年前後
144	紙芝居	
145	こども2	昭和30年代
146	広報アルバム	
147	紀三井寺競馬場	昭和30年ころ
148	競馬ニュース	
149	出馬表	
150	紀三井寺競馬馬券	

高度成長

151	税金の種類 (S25 市勢要覧)	昭和24年度
152	業種別工場数 (S25 市勢要覧)	昭和24年度
153	目で見る市政	昭和38年ころ
154	和歌山市駅	昭和40年ころ
155	和歌山市駅構内	昭和32年
156	東和歌山駅	昭和40年ころ
157	東和歌山駅構内	昭和40年ころ
158	市電内部	
159	和歌山軌道線案内図	
160	車掌腕章	
161	切符	
162	方向板	
163	和歌山城再建1	昭和33年

164	和歌山城再建2	昭和32~33年
165	和歌山城再建について (パンフレット)	昭和31年
166	和歌山城再建ポスター	
167	和歌山城竣工記念記念行事表	
168	入場券	
169	和歌山城模型	
170	生活の様子	昭和30年前後
171	電話のしおり	昭和30年前後
172	市民の生活 (S25 市勢要覧)	昭和24年度
173	溝掃除	昭和33年
174	たらい、洗濯板	
175	電気こたつ	
176	炭火アイロン	昭和20年代
177	自転車鑑札	
178	氷冷蔵庫	
179	検診	昭和29年
180	ナポリ号	昭和30年代
181	プール	昭和30年
182	こども1	昭和25年前後
183	紙芝居	
184	こども2	昭和30年代
185	広報アルバム	
186	紀三井寺競馬場	昭和30年ころ
187	競馬ニュース	
188	出馬表	
189	紀三井寺競馬馬券	
190	炊飯器	
191	ジャー	
192	ポット	
193	黒潮国体秋季大会開会式	昭和46年
194	参加章	
195	記念メダル	
196	入場券	
197	秋季大会開会式プログラム	
198	記念品	

4 昭和後期～平成期

きらり輝く元気な街へ

199	旧市民会館取り壊し	昭和 50 年ころ
200	新和歌山市役所竣工	昭和 51 年
201	新しい庁舎	昭和 51 年
202	和歌山市立博物館開館	昭和 60 年
203	躍虎まつり	昭和 60 年
204	躍虎まつり記念時計	昭和 60 年
205	躍虎まつりパンフレット	昭和 60 年
206	市制 100 周年記念式典	平成元年
207	世界リゾート博開会式	平成 6 年
208	中核市移行	平成 9 年
209	中核市移行記念テレホンカード	平成 9 年
210	第 1 回ジャズマラソン	平成 13 年
211	和歌山北バイパス（紀の国大橋）開通	平成 15 年
212	南海和歌山大学前駅	平成 24 年
213	紀の国わかやま国体看板	平成 27 年
214	トーチ	平成 27 年
215	松明	平成 27 年
216	カンテラ	平成 27 年
217	記念章	平成 27 年
218	きいちゃん人形	平成 27 年
219	京奈和自動車道（紀北西道路）	平成 29 年
220	和歌浦日本遺産	平成 29 年
221	伏虎義務教育学校	平成 29 年
222	総合パネル	
199	旧市民会館取り壊し	昭和 50 年ころ
200	新和歌山市役所竣工	昭和 51 年
201	新しい庁舎	昭和 51 年
202	和歌山市立博物館開館	昭和 60 年
203	躍虎まつり	昭和 60 年
204	躍虎まつり記念時計	昭和 60 年
205	躍虎まつりパンフレット	昭和 60 年

206	市制 100 周年記念式典	平成元年
207	世界リゾート博開会式	平成 6 年
208	中核市移行	平成 9 年
209	中核市移行記念テレホンカード	平成 9 年
210	第 1 回ジャズマラソン	平成 13 年
211	和歌山北バイパス（紀の国大橋）開通	平成 15 年
212	南海和歌山大学前駅	平成 24 年
213	紀の国わかやま国体看板	平成 27 年

○夏季企画展

「和歌山出身の洋画家 没後 20 年 中畑 艸人展」

〈開催期間〉 7 月 13 日（土）～8 月 12 日（祝）

〈開催日数〉 27 日間

〈入館者数〉 1,773 人

〈開催趣旨〉

中畑艸人（1912-99）は、和歌山市出身の洋画家である。初め、独学で水彩画を描いていたが、後に画家・碓伊之助に師事し、油彩画を描くようになった。馬の絵をライフワークとし、躍動感あふれる馬を数多く描いた。本展覧会では、中畑艸人没後 20 年を記念して、彼の描いた馬の絵を中心に、中畑艸人の画家としての生き方を概観する。

会期中は、中畑艸人の出身校である和佐小学校の生徒たちによる絵画作品の展示も行った。

〈講演会〉

7 月 13 日（土）午後 2 時～3 時

「中畑先生の思い出」

平井利明氏（洋画家、一水会常任委員・研水会会員）

8 月 10 日（土）午後 2 時～3 時 30 分

「中畑艸人：人と芸術」 近藤 壮（当館館長）

〈展示解説〉 午後 2 時～3 時

7 月 27 日（土）参加者 7 人、8 月 12 日（祝）



〈展覧会図録〉

企画展図録『和歌山出身の洋画家 没後 20 年中畑艸人展』(B5 版、24 頁、500 円) を発行した。

〈出品目録〉

No.	資料名	所蔵
1	岡口門と和歌山城を望む 西博民	和歌山県立近代美術館
2	曲角 中畑艸人	和歌山県立近代美術館
3	『五月会報』	個人蔵
4	(参考) 測候所 中畑艸人	個人蔵
5	和歌浦 中畑艸人	個人蔵
6	九谷吸坂窯 色絵 月見草 大皿 碓伊之助	個人蔵
7	中支 中畑艸人	個人蔵
8	洞庭湖 中畑艸人	個人蔵
9	花茨 中畑艸人	個人蔵
10	搾乳機のある牛舎 中畑艸人	個人蔵
11	無題(水辺にたたずむ馬) 中畑艸人	個人蔵

12	無題(馬術) 中畑艸人	個人蔵
13	銅版画集(駿馬シリーズ) 中畑艸人	個人蔵
14	旭日群馬 中畑艸人	和歌山市和佐地区会館
15	怒涛の岬 中畑艸人	個人蔵
16	みちしほ 中畑艸人	個人蔵
17	リュクサンブール公園 中畑艸人	個人蔵
18	ベニスの春 中畑艸人	個人蔵
19	僧院の庭(スペイン) 中畑艸人	宝塚市
20	聖グビオの金曜日 中畑艸人	宝塚市
21	小春 中畑艸人	個人蔵
22	栄光の騎手(スペイン) 中畑艸人	個人蔵
23	キャラバン 中畑艸人	個人蔵
24	無題(スフィンクス) 中畑艸人	個人蔵
25	へきれき(パエトンの悲劇) 中畑艸人	和歌山県立近代美術館
26	落暉・白昼夢・青夜(現代の神話)三部作) 中畑艸人	宝塚市
27	古城のほとり 中畑艸人	和歌山市立高積中学校
28	師父の滝 中畑艸人	和歌山市立和佐小学校
29	夢幻 中畑艸人	宝塚市
30	惨!!'95 一月一七日 中畑艸人	宝塚市
31	(参考) 緞帳「小鳥が来る街」 中畑艸人	大阪中央公会堂
32	(参考) 陽春・秋晴 中畑艸人	日本中央競馬会阪神競馬場
33	画稿類 中畑艸人	個人蔵

○夏季特別展

「雑賀衆と鷲ノ森遺跡—紀州の戦国—」

〈開催期間〉 8月24日(土)～9月29日(日)

〈開催日数〉 32日

〈入館者数〉 2,479人

〈開催趣旨〉

伏虎義務教育学校建設の際に調査された鷲ノ森遺跡からは、城下町以前の和歌山の様相をうかがい知ることのできる重要な遺物・遺構が見つかっている。なかでも、戦国時代末期から江戸時代初期に該当する15m幅の大溝は、信長との戦いの後に大坂から雑賀に逃れてきた本願寺の寺内に関するものと思われる。鷲ノ森遺跡の貴重な発掘成果を市民に紹介する。あわせて、鷲森別院の寺宝など紀伊の一向宗門徒に関する資料、さらには紀伊国を超えて和泉・摂津・河内などで活動した雑賀衆の活動が分かる資料を紹介することによって、戦国時代の和歌山の「面白さ」を広く市民に伝える。

〈展示構成〉

- 一 鷲森別院の寺宝
- 二 鷲森寺内の世界
- 三 紀州内外の雑賀衆の活躍

〈講演会〉 2階講義室

8月31日(土) 14時～

「雑賀衆と『石山合戦』」

武内善信氏(元和歌山市立博物館/和歌山城整備企画課)

9月7日(土) 14時～

「戦国期の鷲森御坊—鷲森に存在した国宝級建築—」

西村歩氏(歴史館いづみさの)

9月14日(土) 14時～

「雑賀と根来 南近畿の戦国社会」

仁木宏氏(大阪市立大学大学院文学研究科)

9月21日(土) 14時～

夏季特別展/紀州徳川家入国400年記念
さいか しゅう さぎ の もり い せき
雑賀衆と鷲ノ森遺跡
—紀州の戦国—
The Sengoku period in Kii province
主催:和歌山市 協力:本願寺鷲森別院/(公財)和歌山市文化スポーツ振興財団埋蔵文化財センター
2019年8月24日(土)～9月29日(日)

和歌山市立博物館 Wakayama City Museum

「鷲ノ森遺跡」の発掘調査成果を市民に紹介する。あわせて、鷲森別院の寺宝など紀伊の一向宗門徒に関する資料、さらには紀伊国を超えて和泉・摂津・河内などで活動した雑賀衆の活動が分かる資料を紹介することによって、戦国時代の和歌山の「面白さ」を広く市民に伝える。

和歌山市立博物館 Wakayama City Museum

「鷲ノ森遺跡の発掘調査成果」

井馬好英氏(公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団埋蔵文化財センター)

「雑賀惣国一揆の世界」

小橋勇介(当館学芸員)

〈展示解説〉 14～15時

8月25日(日)・9月1日(日)・9月16日(月・祝)・9月23日(月・祝)

〈フィールドワーク雑賀衆ゆかりの地を歩く〉

9月29日(日) 13時～

和歌山市駅～鷲森別院～中ノ店～宇治神社～志磨神社～紀和駅 約4km

〈ICOM KYOTO 2019 開催記念イベント〉

9月12日 13時～

当館エントランスホール

・雑賀衆 甲冑隊参上!

・黒潮躍虎太鼓保存会による太鼓演奏

〈展覧会図録〉

展示資料の写真、解説などを掲載した特別展図録『雑賀衆と鷲ノ森遺跡—紀州の戦国—』(A4版、96ページ、1,000円)を発行した。

〈出品目録〉

一 鷺森別院の寺宝

No.	資料名	所蔵者
1	二尊像（親鷺・蓮如肖像）	本願寺鷺森別院
2	親鷺聖人絵伝	本願寺鷺森別院
3	御文章	本願寺鷺森別院
4	証如上人紀州下向記写	覚円寺
5	顕如影像	本願寺鷺森別院
6	准如影像	本願寺鷺森別院
7	覚如影像	本願寺鷺森別院
8	光明蓮台十字名号・六化仏像	本願寺鷺森別院
9	九字名号・十字名号・六字名号	本願寺鷺森別院
10	証如書状	本願寺鷺森別院
11	顕如書状	本願寺鷺森別院
12	豊臣秀吉禁制	本願寺鷺森別院
13	准如書状	本願寺鷺森別院
14	鷺森旧事記	本願寺鷺森別院
15	鷺森神社記	本願寺鷺森別院
16	鷺森寺内坪付之水帳	本願寺鷺森別院
17	准如自詠歌	本願寺鷺森別院
18	浅野幸長年頭書初	本願寺鷺森別院
19	古御本堂其外立家不残之絵図	本願寺鷺森別院
20	南紀鷺森本願寺懸所現境内図 絵	本願寺鷺森別院
21	宝物御主簿	本願寺鷺森別院
22	九条兼実像	本願寺鷺森別院
23	岩瀬広隆筆 猿廻図	本願寺鷺森別院
24	狩野常信筆 野馬図	本願寺鷺森別院
25	程玉泉筆 虎図	本願寺鷺森別院
26	周之冕筆 花鳥図	本願寺鷺森別院
27	維摩・竜虎図	本願寺鷺森別院
28	親鷺聖人影像	浄国寺

二 鷺森寺内の世界

No.	資料名	所蔵者
30	土師器・須恵器	本市文化振興課
31	滑石製装飾品	本市文化振興課
32	耳環	本市文化振興課

33	黒色土器・瓦器	本市文化振興課
34	鱧口	本市文化振興課
35	橋脚	本市文化振興課
36	一石五輪塔	本市文化振興課
37	瓦	本市文化振興課
38	備前焼	本市文化振興課
39	土師質・瓦質土器	本市文化振興課
40	土師器皿	本市文化振興課
41	漆器	本市文化振興課
42	温石	本市文化振興課
43	矢筈	本市文化振興課
44	木製生活用品	本市文化振興課
45	木製道具	本市文化振興課
46	木製舟形・人形	本市文化振興課
47	土錘	本市文化振興課
48	蛸壺	本市文化振興課
49	銭貨	本市文化振興課
50	鍛冶関連遺物・鉄製品	本市文化振興課
51	武器・武具	本市文化振興課
52	瀬戸美濃系陶磁器	本市文化振興課
53	釣瓶	本市文化振興課
54	中国製陶磁器	本市文化振興課
55	天正・慶長年間古書	念誓寺
56	鷺森丁水帳写	個人
57	町中名書覚帳	個人
58	瓦漏	本市文化振興課
59	焜炉	本市文化振興課
60	大谷焼	本市文化振興課
61	肥前系陶磁器	本市文化振興課
62	丹波焼	本市文化振興課
63	玩具	本市文化振興課
64	土管	本市文化振興課
65	和歌山城下町絵図（複製）	本館

三 紀州内外の雑賀衆の活躍

No.	資料名	所蔵者
66	真木嶋昭光書状	個人
67	顕如書状	蓮乗寺

68	顯如書狀	蓮乘寺
69	顯如書狀	滋賀県立安土城考古博物館
70	顯如書狀	徳願寺
71	下間頼廉書狀	念誓寺
72	口雜賀足輕惣中定書(八尾市指定文化財)	真観寺
73	足利義昭奉行人連署奉書	個人
74	真木嶋昭光書狀	個人
75	顯如書狀	念誓寺
76	顯如書狀	善勝寺
77	顯如書狀	滋賀県立安土城考古博物館
78	慈敬寺証智等連署書狀	蓮乘寺
79	顯如書狀	願泉寺
80	顯如書狀写	念誓寺
81	下間頼廉書狀写	覚円寺
82	石山合戦図写	本館
83	錦絵 石山本願寺合戦 一陽齊豊宜画	本館
84	錦絵 太閤記 石山大合戦之図 楊洲周延画	本館
85	火縄銃	個人
86	火縄銃	個人
87	火縄銃	個人
88	火縄銃	個人
89	鷺森別院文書(巻物二巻)	本願寺鷺森別院
	① 下間頼廉書狀	
	② 清次・光吉連署書狀	
	③ 下間頼廉書狀	
	④ 下間頼廉書狀	
	⑤ 下間頼廉書狀	
	⑥ 下間頼廉書狀	
	⑦ 証賢・下間頼廉連署書狀	
	⑧ 証賢・下間頼廉連署書狀	
	⑨ 下間頼龍・下間仲之連署書狀	

	⑩ 下間頼龍・下間仲之連署書狀	
	⑪ 下間頼龍・下間仲之連署書狀	
	⑫ 下間頼廉書狀	
	⑬ 下間頼廉書狀	
90	口鉄鑄地雜賀鉢兜	本館
91	鉄鑄地置手拭形兜	本館
92	鉄鑄地銀象嵌六枚張兜	本館
93	湯河直春起請文(複製)	本市和歌山城整備企画課
94	○重禰郷百姓等申狀案	個人
95	紀伊国在庁官人等解案	本館
96	母乙女去狀	本館
97	和太莊領家并兼行四ヶ郷内検取帳	本館
98	和太莊東方一円目錄注進狀案	本館
99	宇治三郎衛門売券	本館
100	中言社遷宮上尊日記	本館
101	吉原郷神事男頭注文	本館
102	◎過所船旗	個人
103	葛城入峰諸先達注文	個人
104	賀太浦魚配分狀案	個人
105	賀太莊布海苔・十文錢日記	個人
106	岩瀬広隆筆 加太浦図	本館
107	織田信長朱印狀	個人
108	織田信長朱印狀	個人
109	織田信長禁制	個人
110	織田信長朱印狀	個人
111	羽柴秀吉朱印狀	個人
112	総光寺由来并太田城水責図(複製)	本館
113	貝塚御座所日記写	願泉寺
114	貝塚御座所雜記写	願泉寺
115	卜半斎了珍像	願泉寺
116	貝塚寺内町絵図	願泉寺

◎国指定重要文化財 ○県指定文化財 □市指定文化財

○秋季特別展

徳川家入国400年記念特別展 「徳川頼宣と紀伊徳川家の名宝」

※和歌山県立博物館との共催

〈開催期間〉10月19日(土)～11月24日(日)

〈開催日数〉31日

〈入館者数〉3,527人

〈開催趣旨〉

慶長19年(1614)～20年の大坂の陣によって豊臣氏が滅亡し、名実とも徳川氏の時代が始まります。元和5年(1619)、浅野家に代わって、徳川家康の10男である頼宣(1602～71)が和歌山に入国し、紀伊藩初代藩主となりました。以来、紀伊徳川家は、紀伊国を中心に55万5000石の所領を有する有力大名として紀伊藩の政治をつかさどります。その一方で、御三家の一つであった紀伊徳川家は、江戸幕府徳川将軍家の政治の一翼を担う立場にもありました。

徳川頼宣が和歌山に入国して400年の節目に行うこの特別展では、和歌山県立博物館と和歌山市立博物館とがおこなった共同調査の成果もふまえ、父・家康所用品を遺産として譲り受けた駿河御分物をはじめ、頼宣や頼宣ゆかりの人物(母・養珠院、正室・瑤林院など)の所用品、頼宣や頼宣ゆかりの人物とかかわりがある寺社に残されている宝物、頼宣に仕えた家臣の家に伝来した資料などを紹介しました。こうした資料から、250年続いた紀伊藩の政治や文化の礎となった初代藩主頼宣の事績を明らかにし、徳川頼宣の実像に迫りました。

〈展示構成〉

- I 父と子
- II 母と妻
- III 頼宣の紀州入国
- IV 頼宣の政治と文化
- V 藩祖としての頼宣



〈特別講演会〉

11月9日(土) 14時～15時30分

「徳川御三家の成立と将軍家」白根孝胤氏(中京大学教授)

〈特別講演会〉

10月27日(日) 14時～15時30分

「徳川頼宣と伏見・駿河・紀伊」前田正明氏

11月2日(土) 14時～15時30分

「徳川頼宣と領内の寺社」佐藤 顕

〈ミュージアムトーク(展示解説)〉

10月19日(土)・11月3日(日)・11月17日(日)

※いずれの日も県立博物館 11時～12時 / 市立博物館 14時～15時

〈現地見学会〉

11月4日(月・振休) 13時30分～15時30分

「和歌の浦を歩く」講師 藤本清二郎氏(和歌山大学名誉教授)

11月16日(土) 13時30分～15時30分

「城下町北部を歩く」講師 藤本清二郎氏(和歌山大学名誉教授)

※両日とも事前学習会（10時30分～11時30分）

を開催

（展覧会図録）

和歌山県立博物館と和歌山市立博物館が共同で編集・制作した特別展図録『徳川頼宣と紀伊徳川家の名宝』（A4版、238ページ、2,000円）を発行した。

（出品目録）※県立博物館で展示した資料を含む

I 父と子

（1）人となり

No.	名 称	所蔵者
1	徳川家康像	紀州東照宮
2	○東照宮縁起絵巻 尊純法親王・住吉広通筆	紀州東照宮
3	徳川頼宣像 伝山本養和筆	和歌山県立博物館 和歌山市立博物館
4	徳川家系図	紀州東照宮
5	紀伊徳川家系図	紀州東照宮
6	駿河版群書治要	和歌山県立図書館
7	短冊 徳川家康筆	紀州東照宮
8	年筮	紀州東照宮
9	鶏図 徳川頼宣筆	紀州東照宮
10	七絶詩書 徳川頼宣筆	紀州東照宮
11	名之書付 徳川頼宣筆	紀州東照宮
12	知行之書付 徳川頼宣筆	紀州東照宮

（2）大坂の陣と駿府御分物

No.	名 称	所蔵者
13	○縹糸威胴丸具足 徳川頼宣所用	紀州東照宮
14	○紅地桃文様金糸入繻珍陣羽織 徳川頼宣所用	紀州東照宮
15	○浅葱平絹頭巾 徳川頼宣所用	紀州東照宮
16	○茶麻地葵の葉散小紋鎧下着 徳川頼宣所用	紀州東照宮
17	○白地雲文緞子鎧下着 徳川頼宣所用	紀州東照宮

18	○襷襟 徳川頼宣所用	紀州東照宮
19	○紫地摺箔匂袋 徳川頼宣所用	紀州東照宮
20	○格子麻単袴下 徳川頼宣所用	紀州東照宮
21	◎南蛮胴具足 徳川家康所用	紀州東照宮
22	○南蛮兜 徳川家康所用	紀州東照宮
23	◎太刀 銘左近将監景依 正応二 十一月 日 附 糸巻太刀拵 一口	紀州東照宮
24	○黒漆塗鞍 駿州井関作 徳川家康所用	紀州東照宮
25	○黒漆塗鎧 徳川家康所用	紀州東照宮
26	○冠 徳川家康所用 附 芦雁蒔絵箱 一合	紀州東照宮
27	○笏 徳川家康所用 附 青貝螺鈿箱 一合	紀州東照宮
28	○石帯 徳川家康所用	紀州東照宮
29	○革沓 徳川家康所用	紀州東照宮
30	◎紺地宝尽小紋小袖 徳川家康所用	紀州東照宮
31	◎藍地花菱唐草文散紋小袖 徳川家康所用	紀州東照宮
32	○紅黄縞縹子小袴 徳川家康所用	紀州東照宮
33	能面	個人
34	駿府御分物目録	個人
35	鶴蒔絵面筆筒	個人

（3）御香宮と海蔵寺

No.	名 称	所蔵者
36	伏見町及び周辺絵図	御香宮神社
37	御香宮境内古図	御香宮神社
38	御香宮屋方之図	御香宮神社
39	御香宮縁起 下	御香宮神社
40	山城国伏見御香宮御造宮奉願之覚	御香宮神社
41	江戸年頭之扣	御香宮神社
42	都名所図会 卷之五	和歌山県立博物館
43	墨梅図 徳川家康筆	海蔵寺

44	墨竹図 徳川頼宣筆	海蔵寺
45	海蔵寺本尊地藏大菩薩宮殿棟札	海蔵寺
46	地藏尊縁起	海蔵寺
47	□徳川頼宣守り本尊厨子 附 厨子内納 入品・内厨子・守り本尊（焼津市指定文化財）	海蔵寺
48	紀州家御尋に付書上	海蔵寺
49	出開帳記録（江戸・紀州）	海蔵寺
50	書「宝城山」 徳川治宝筆	海蔵寺

II 母と妻

(1) 養珠院

No.	名 称	所蔵者
51	お万の方坐像 厨子入	本遠寺
52	七面山踏分ノ霊像（養珠院像）	本遠寺
53	七面山踏分ノ杖	本遠寺
54	子安鬼子母神立像	本遠寺
55	お万の方書状	本遠寺
56	扁額「本遠寺」 本阿弥光悦筆	本遠寺
57	甲州大野山本遠寺建立事	本遠寺
58	甲州大野山本遠寺定式之事	本遠寺
59	徳川頼宣書状 本遠寺日近上人宛	本遠寺
60	徳川頼宣書状 本遠寺宛	本遠寺
61	本遠寺本堂棟札	本遠寺
62	大野山本遠寺什物帳	本遠寺
63	三浦為時書状 日近上人宛	本遠寺
64	浄心寺書付	本遠寺
65	養珠院殿除厄祈念尊像	個人
66	版木（養珠院殿除厄祈念尊像）	報恩寺
67	養珠院日心定書	個人

(2) 瑤林院

No.	名 称	所蔵者
68	太笑記	和歌山市立博物館
69	瑤林院手跡	報恩寺
70	楽琵琶 瑤林院所用	報恩寺
71	楽箏 瑤林院所用	報恩寺

III 頼宣の紀州入国

(1) 東照宮と和歌浦

No.	名 称	所蔵者
72	加藤清正書状 加藤喜左衛門・下川又左衛門宛	報恩寺
73	赤地唐草文金糸入縫取織七条袷裳	報恩寺
74	日順任権律師口宣案	報恩寺
75	徳川光貞寺領寄進状	報恩寺
76	白雲山報恩寺由緒扣	報恩寺
77	法華經陀羅尼品第二十六・神力品第二十一	報恩寺
78	お万の方坐像 厨子入	報恩寺
79	鐘馗図 徳川光貞筆	報恩寺
80	法華經提婆達多品	報恩寺
81	日蓮聖人坐像	本久寺
82	万部山本久寺ノ記	本久寺

No.	名 称	所蔵者
83	写真(修理前の東照宮)	紀州東照宮
84	神鏡「紀弼東照大権現社」	紀州東照宮
85	楼門旧扁額「東照大権現」 良怒法親王筆	紀州東照宮
86	扁額本紙「東照宮」 守澄法親王筆	紀州東照宮
87	口和歌御祭礼図屏風	海善寺
88	◎太刀 銘 安綱 附 糸巻太刀拵 一口	紀州東照宮
89	紀州和歌浦妹背山養珠寺建立事	養珠寺
90	養珠寺境内図	養珠寺
91	法華経寿量品	養珠寺
92	口徳川頼宣奉納和歌短冊	玉津島神社
93	口三十六歌仙額 狩野興甫筆	玉津島神社

(2) 駿河越えの家臣たち

No.	名 称	所蔵者
94	南紀徳川史 卷之七十	紀州東照宮
95	御家中諸士先祖書	和歌山市立博物館
96	安藤直次像	和歌山県立博物館
97	安藤家系譜	和歌山市立博物館
98	徳川家康旗下二十将図	和歌山市立博物館
99	和歌山城三の丸安藤家屋敷地出土品	和歌山市
	①唐草文滴水瓦・三巴文軒丸瓦	
	②下がり藤紋鬼瓦・滴水瓦・軒丸瓦	
100	薄浅葱糸威五枚胴具足 安藤直清所用	和歌山県立博物館
101	祖公外記 卷二	和歌山県立図書館
102	新熊野権現社本殿造営棟札	鬮雞神社

103	水野家系譜	全正寺
104	紀州新宮城絵図	和歌山県立博物館
105	水野重仲像	全正寺
106	水野重良像	全正寺
107	直川府中山論書付写	和歌山市立博物館
108	大福山旧記	本恵寺
109	直川莊千手寺寺僧・番頭等連署状	和歌山市立博物館
110	三浦家系図伝 完	和歌山市立博物館
111	正木頼忠辞世	和歌山市立博物館
112	あだ物語	個人
113	紀伊藩士芦川家文書	和歌山県立博物館
	①徳川家康領知朱印状	
	②知行目録	
	③知行目録	
	④知行加増目録	
	⑤知行割替目録	
	⑥南龍院御書之写	
	⑦芦川家系譜	
	⑧軍旅につき人馬道具定	

IV 頼宣の政治と文化

(1) 將軍家と紀伊徳川家

No.	名 称	所蔵者
114	江戸天下祭図屏風	個人
115	明暦以前江戸紀州藩邸図	個人
116	和歌山古屋敷絵図	和歌山県立図書館
117	阿弥陀寺本堂(旧紀伊藩台徳院靈屋)火灯窓部材	阿弥陀寺
118	◎阿弥陀寺本堂(旧紀伊藩台徳院靈屋)修理棟札	阿弥陀寺
119	紀伊国名所図会 初編巻之一下	和歌山県立博物館
120	徳川頼宣願文	紀州東照宮
121	徳川頼宣誓書写	紀州東照宮
122	毘沙門堂公海書状 双巖院宛	紀州東照宮
123	天海僧正像	長保寺
124	東照大権現宝号 天海筆	長保寺
125	天海書状 徳川頼宣宛	紀州東照宮
126	小牧長久手合戦図屏風(副本)	犬山城白帝文庫
127	小牧長久手合戦陣立図(複製)	可児郷土歴史館 (原本は小松寺)
128	川中島合戦図屏風(紀州本)	和歌山県立博物館
129	三君御旗印 大関左介筆	和歌山市立博物館
130	宇佐美家系譜	和歌山県立文書館

(2) 領国支配

No.	名 称	所蔵者
131	伊勢熊野筋諸書留	和歌山県立博物館
132	正保二年定書写	和歌山県立博物館
133	南紀徳川史 巻之九十三	紀州東照宮
134	紀伊国那賀郡田中荘山之絵図	和歌山県立博物館
135	彦坂光正書状	和歌山県立博物館

136	浅野幸長定書	山神社
137	浅野氏重書状	山神社
138	紀伊藩家老連署定書	山神社
139	紀伊藩家老連署書状	山神社

(3) 新しい文化の芽生え

No.	名 称	所蔵者
140	人君明暗図説	個人
141	廟算図	和歌山市立博物館
142	南紀略志	和歌山市立博物館
143	和佐庄中訴状	歎喜寺
144	父母状 李梅溪筆	和歌山市立博物館
145	大君言行録	個人
146	唐人物図屏風 狩野興甫筆	和歌山県立博物館
147	貼交屏風 狩野興甫筆	和歌山県立博物館

(4) 寺社復興と領内遊覧

No.	名 称	所蔵者
148	紀伊国造系図	個人
149	紀伊国造印	個人
150	加太浦之図	和歌山市立博物館
151	加太淡島遷宮行事	淡島神社
152	従国々御参詣并御代参覚	淡島神社
153	広蓋	淡島神社
154	多葉粉盆	淡島神社
155	友箇嶋行所禁制	個人
156	紀伊藩家老奉書	個人
157	紀州友ヶ島図 狩野興甫筆	和歌山県立博物館
158	釈迦如来及び迦葉・阿難像 黒漆塗厨子入	海雲寺

159	□剣 伝明恵所持（湯浅町指定文化財）	施無畏寺
160	□衣奈八幡宮縁起絵巻（由良町指定文化財）	衣奈八幡神社
161	五体王子へ殿様御参詣旧記写	切目神社
162	飛天図絵馬	切目神社
163	香炉	切目神社
164	□奕世年譜（田辺市指定文化財）	高山寺
165	○田辺町大帳 巻一	鬪雞神社
166	○万代記 巻一～巻五	鬪雞神社
167	熊野三山絵図	熊野那智大社
168	熊野本宮棟札写	和歌山県立図書館
169	金剛盤	和歌山県立博物館
170	熊野山本宮権現御修理之目録	熊野本宮大社
171	後鳥羽上皇熊野参詣記写	熊野本宮大社
172	略記	熊野本宮大社
173	熊野懐紙写	熊野速玉大社
174	剣	熊野那智大社
175	◎金銀装宝剣 拵 後藤琢乗作 附 銅鍍金銀箱 一箇	熊野那智大社

V 藩祖としての頼宣

(1) 菩提所長保寺

No.	名 称	所蔵者
176	冠 徳川頼宣所用	長保寺
177	薄黄地八藤表袴 徳川頼宣所用	長保寺
178	襪 徳川頼宣所用	長保寺
179	黒漆塗浅沓 徳川頼宣所用	長保寺
180	□長保寺絵図面（廟所絵図）（海南市指定文化財）	長保寺

181	南龍院宝号 公海筆	長保寺
182	法華経（御八講用）	長保寺
183	徳川光貞寺領寄進状	長保寺
184	慶徳山長保寺南龍院靈牌所墓地法式	長保寺
185	法華経寿量品	長保寺
186	銅製香炉並朱漆塗香台	長保寺
187	江戸幕府老中連署奉書	長保寺

(2) 明治維新と紀伊徳川家

No.	名 称	所蔵者
188	徳川家康坐像	紀州東照宮
189	○六間筋兜 徳川家康所用	紀州東照宮
190	◎白地葵紋綾小袖 徳川家康所用	紀州東照宮
191	○海老蒔絵鞍 徳川家康所用	紀州東照宮
192	○海老蒔絵鎧 徳川家康所用	紀州東照宮
193	陣貝 徳川家康所用 附 黒漆塗内箱 一合	紀州東照宮
194	徳川十六将図	紀州東照宮
195	徳川家康像 伝慈眼大師（天海）筆	紀州東照宮
196	○金唐革陣羽織	紀州東照宮
197	○紺糸威胴丸具足 徳川家康所用	紀州東照宮
198	布袋図 徳川頼宣筆	紀州東照宮
199	和漢朗詠集中詩歌 後陽成天皇筆	紀州東照宮
200	◎刀 銘長曾禰興里入道虎徹	紀州東照宮

◎国指定重要文化財 ○県指定文化財 □市指定文化財

○冬季企画展

「歴史を語る道具たち」

〈開催期間〉

令和2年1月7日(火)～3月1日(日)

〈開催日数〉

50日

〈入館者数〉

3,616名(小学校43校、2,244名)

〈開催趣旨〉

和歌山市立博物館では、開館以来多くの市民の方々から寄贈された農具・生活用具等の民具を多数所蔵している。これらの資料の一部は常設展示室に展示し、展観事業に供しているが、その他の多くの資料を有効に活用するため、企画展「歴史を語る道具たち」を開催し、先人の生活の知恵を学ぶ機会にしたいと考えている。

なお、本展覧会は小学校3・4年生社会科の学習指導要領に対応するものである。小学生団体専用の教育プログラム(60分コース、90分コース)を用意し、学芸員が展示案内をしている。また米づくりの映画を上映して(90分コースのみ)、行灯に点灯し明るさの体験や蓄音機でレコードを聴くことなど、昔の生活の体験もしてもらっている。

〈展示構成と主な展示資料〉

1 ぐらしの道具

扇風機、裁縫箱、たらい、和傘など

2 遊びと勉強

教科書、通信簿、ベーゴマ、羽子板など

3 あかりの道具

行灯、提灯、蠟燭箱、ランプなど

4 食事の道具

羽釜、蒸籠、提重、箱膳、氷冷蔵庫など

5 はかる道具

竿ばかり、斗枘、鯨尺、看貫ばかりなど

6 暖まる道具

箱火鉢、こたつ、行火、湯たんぽなど



7 ちょっと昔の道具

冷蔵庫、洗濯機、掃除機、白黒テレビなど

8 米づくりの農具

鍬、馬鍬、千歯こき、唐臼、唐箕など

総展示点数 約160点

〈ワークシート〉

本展覧会では、小学生3、4年生の団体見学が多い。そのため、展示をより深く理解してもらえるようにワークシート(オールカラー・全8ページ)を作成し、無料配布している。シートには民具や農具の写真を掲載しており、その資料を展示物から探し出し、名称を書くようになっている。今年度は電気洗濯機など新しい写真やイラストを加え、ワークシートの改訂版を作成した。

○ホール展示

昭和20年7月9日和歌山大空襲

—(続)伝えたい あの時の記憶—

〈開催期間〉7月6日(土)～8月4日(日)

〈開催場所〉1階 玄関ホール

〈開催趣旨〉

2年前に博物館で和歌山空襲の体験談をパネル展示した。今回は、それ以後に博物館で収録した空襲体験談をパネル展示し、空襲関係の資料なども展示した。

○特集展示

「平成30年度寄贈資料展」

〈開催期間〉3月14日（土）～4月5日（日）

〈開催日数〉20日

〈入館者数〉376人

〈開催趣旨〉

和歌山市立博物館は、昭和60年（1985）の開館以前から市民の方々からたくさんの郷土和歌山の歴史等に関する資料をご寄贈いただいています。これらの資料は、大切に保管し、展示や研究に活用しています。このたび開催する「平成30年度寄贈資料展」は、平成30年度の1年間に市民の方々からご寄贈いただいた資料を展示します。昨年度は6名からご寄贈いただきました。

これらの資料は、学芸員が資料を調査し、当館で活用できると判断し収集したものです。いずれの資料も、それぞれ歴史的背景と価値をもち、また資料を所蔵していた方々の歴史や思いが込められている貴重なものです。

〈展示点数〉54件87点

○コーナー展示

・4月2日～6月2日

「和歌山市における南北朝時代」・「絵画にみる春の花々」

・6月4日～8月4日

「徳川頼宣の傳役・三浦為春と家老三浦家」・「弥生時代の大規模集落―宇田森遺跡」

・8月6日～10月6日

「紀州の鉄砲」・「ヘンリー杉本が描いた戦争」

・10月8日～1月5日

「描かれた紀州の海岸」・「写真にみる戦後の和歌海苔」

・1月7日～3月29日

「絵画にみる米づくり」・「江戸時代の加太」

2. 教育普及事業

○史跡散歩

「熊野古道を歩く―矢田峠を越えて―」

・日時 11月30日（土）

午後1時00分～4時頃まで

・経路 JR布施屋駅―①川端王子社跡―②旧中筋家住宅―③和佐王子社跡―④和佐大八郎の墓―⑤矢田峠―⑥平緒王子社跡―⑦わかやま電鉄伊太祁曽駅（解散） ※徒歩距離約6km

・参加者 8名

・参加費 無料

当館は、城下町和歌山にある歴史系博物館で、城下町や和歌山市内各地に残る史跡や文化財をたずねる、史跡散歩を毎年開催している。

今回は史跡散歩第50回で、熊野古道が世界遺産に指定されて15周年ということのを記念して、「熊野古道を歩く」を企画した。紀ノ川南岸の川端王子付近から、和歌山市内で最も熊野古道の景観が残る矢田峠を越えて、山東地区の平緒王子付近までを歩いた。

○体験学習

1 「休館日の博物館を探検しよう」

・日時 令和元年8月5日（月）

14時～15時30分

・場所 和歌山市立博物館内

・参加者 17名

平成25年度から夏休み中の休館日を利用して、子ども向けに博物館のバックヤードや展示替えの

作業をみていただく行事として開催している。普段はケース越しに見る資料を間近で見たり触れられる企画で、子どもたちに人気がある。

2 「割りばしゴム鉄砲をつくろう」

・日 時 令和元年8月11日(土)
午後1時30分～4時

- ・場 所 1階 玄関ホール
- ・対象 中学生以下
- ・参加者 36名
- ・参加費 無料

割りばしと輪ゴムを使って、ゴム鉄砲作りをおこない、的に当てて遊んでもらい、昭和時代の子どもたちの遊びの一端を体験してもらった。

3 「むかしの遊びを体験しよう」

・日 時 令和2年1月25日(土)
令和2年2月23日(土) 中止

※いずれも午後1時30分～4時

- ・場 所 1階 玄関ホール
- ・参加者 1月25日 25人
- ・参加費 無料

メンコや竹とんぼ、おはじき、折り紙などをとおして、戦後昭和時代に流行したこどもの遊びを体験してもらった。2月22日は新型コロナウイルス感染防止のため中止した。

○講座等

1 古文書講座「戦国時代の紀州の古文書を読む」

・日 時 令和元年5月から令和2年3月までの
第二日曜日(ただし8月はお盆休み、
3月はコロナウイルスにより休止)
午後2時～3時30分

- ・場 所 2階 講義室
- ・参加者 56人

戦国時代の和歌山、とくに雑賀衆に関わる古文書をテキストにして、くずし字の解読方法をレク

チャーした。くずし字の読み方だけでなく、和歌山の戦国史についてもレクチャーした。

2 映画上映会「和歌山大空襲」と「空襲体験絵巻」

・日 時 7月6日(土) 14時～15時
・場 所 2階 講義室
・参加者 65人

昭和20年7月9日深夜から翌未明にかけての和歌山大空襲のドキュメンタリー映画と和歌山大空襲を体験した人の描いた絵巻物を上映した。

3 学芸員講座

令和元年度から4月～7月及び12月～3月の第3土曜日に計8回、「歴史の玉手箱」と題して、各学芸員が研究テーマとしている分野についての講座を行った。それぞれ、14時～15時に実施。

4月20日(土) 博物館学芸員のしごと

参加者 12人

5月18日(土) 徳川頼宣の関連資料について

参加者 34人

6月15日(土) 和歌山市の弥生時代

参加者 15人

7月20日(土) 戦災による和歌山市の焼失文財

参加者 16人

12月21日(土) ここがあぶない！—和歌山市の
災害史—

参加者 13人

1月18日(土) 米軍も目をつけた？和歌山市の写
真会社

参加者 26人

2月15日(土) 家老・三浦家の食卓

参加者 24人

3月21日(土) 和歌山市の中世古文書を読む

中止

○回想法プログラム

「回想法」とは、1960年代にアメリカの精神科医によって提唱された非薬物療法の一つで、高齢者が昔の懐かしい記憶や楽しかった思い出を振り

返ることによって、脳を活性化させる心理・社会的アプローチである。

本館では、冬季企画展「歴史を語る道具たち」の会期中、体験学習室に昭和初期から同 40 年代の生活道具や玩具などを展示した。電気こたつ、ダイヤル式電話、氷冷蔵庫、ちゃぶ台などで、年配の人であれば実際に使用したことのある資料ばかりである。このスペースにおいては、実際に高齢者が資料に触れることができ、高齢者が過去を思い出すことによって、介護予防に役立てていただくよう、本プログラムを実施している。

今年は年明けから新型コロナウイルスの感染が和歌山県内で広がり、特に高齢者は重症化する危険性が高いため、期間中に同プログラムを利用する施設等はまったくなかった。

〈実施期間〉

令和 2 年 1 月 7 日(火)～3 月 1 日(日)

○博物館実習

令和元年 8 月 27 日(火)～31 日(土)

大学における博物館学芸員資格取得課程の実習館として毎年実施している。令和元年度は 8 月 27 日から 31 日の 5 日間で実施し、和歌山大学生 5 名、甲南女子大学生・佛教大学生・近畿大学生・大阪学院大学生各 1 名、計 9 名が参加した。実習内容は以下のとおりである。

- 8 月 27 日(火) 館内案内・特別展案内
学芸員の仕事・絵画資料の扱い方
- 8 月 28 日(水) 考古資料の扱い方、発掘現場の見学、地図の扱い方
- 8 月 29 日(木) デジタル一眼レフの使い方
—古文書資料の撮影—
博物館資料の整理
- 8 月 30 日(金) 武器・武具の扱い方
博物館資料の整理
- 8 月 31 日(土) 展覧会の企画書作成

講演会の準備

実習レポート作成

【博物館実習受け入れに関する内規】

1 本館において博物館実習の受講を希望するのは、次のすべてをみたすものに限る。

(1) 受講を希望するものの所属する大学から依頼のあったものであること。

(2) 和歌山県内出身者または和歌山県内の大学に在籍する学生であること。

(3) 専攻分野が人文科学系であること。

(4) 実習を受講する前年までに、博物館施行規則第 1 条に掲げる生涯学習概論・博物館概論・博物館経営論・博物館資料論・博物館資料保存論・博物館展示論・博物館教育論・博物館情報・メディア論に相当する課目を履修済みであり、かつこれ以外の科目をすべて当該年に取得できる見込みのあること。

2 実習生の受け入れ定員は 20 名以内とする。

3 館長が特に認めた場合は、この限りではない。

内規 平成 11 年 4 月 1 日

改正 平成 24 年 4 月 1 日

○ミュージアムボランティア

平成 20 年度から和歌山大学教育学部からミュージアムボランティアを受け入れている。本年度は和歌山大学生 3 名を受け入れた。本館担当学芸員と学生が調整を付け各種作業を行う。強制ではなく、双方の都合があわなければ実施できないことになる。そのため、比較的軽い作業を補助していただくことが多い。活動内容は主に古写真や古銭など博物館資料の整理であった。

○職場体験

平成 23 年度から中学生の職場体験を受け入れ

ている。中学生としての勤労観、職業観を育成させるため、様々な職場での体験が求められている。本年度は西脇中学校2年生3名(6月4日～6日)、西和中学校2年生2名(9月18日～20日)、紀之川中学校2年生2名(9月25日～27日)、東中学校2年生4人(11月12日～14日)の4校11人を受け入れた。体験内容は、受付業務、資料整理、展示ケース等の清掃、演示具の整理などである。

〇ウェブサイト

平成10年度に本館ウェブサイト在和歌山市ウェブサイト内に開設して以来、コンテンツを改定・補充してきた。その後、平成16年7月から、館として新たに独自ドメインを取得、オリジナルウェブサイトを作成、運営を行うこととした。平成22年度より、ドメイン名の変更とともに、リニューアルを行い、さらに平成30年度末には、大幅なリニューアルを行なった。博物館への問い合わせや図録の購入申込み、展覧会事業の情報などが得られ、各種申請書もダウンロードできるため、アクセス数も着実に増えている。

また、平成26年度から新たな試みとして、和歌山市立博物館公式Twitter(ツイッター)を開設した。定期的に展覧会やイベントの情報を発信しており、フォロワー数も順調に増加している。博物館ホームページ(令和2年4月現在)

<http://www.wakayama-city-museum.jp/>
和歌山市立博物館公式Twitterアカウント
(令和2年4月現在)

https://twitter.com/w_city_hakubuts

3. 調査研究事業

〇職員の執筆文献

近藤 壮

〈図録〉

2019.7.13『和歌山出身の洋画家 没後20年 中

畑艸人展』、和歌山市立博物館企画展図録

山下 奈津子

〈論文〉

2019.7.31「近世後期、紀州藩における下級武士の住宅について」、『和歌山地方史研究』77号、和歌山地方史研究会

2020.3.20「紀州徳川家御用菓子商・駿河屋伝来の絵手本について」、『和菓子』27号、株式会社虎屋

〈資料紹介〉

2019.12.27「紀州藩家老家の食卓(2)」、『研究紀要』34号、和歌山市立博物館

2020.3.31「史料翻刻『類集略記』補一御目付中編(四)～(一〇)」、『和歌山市史研究』48号、和歌山市立博物館

2020.3.31「史料翻刻『類集略記』補一仲間筋編(一)」、『和歌山市史研究』48号、和歌山市立博物館

〈資料翻刻〉

2020.3.27『堺市博物館所蔵資料調査報告書 与謝野晶子「新新訳源氏物語」桐壺の巻草稿調査報告』(共同研究)、堺市博物館

佐藤 顕

〈著書〉

2019.9.20『紀伊の霊場と近世社会』清文堂出版
〈論文〉

2019.7.31「近世都市和歌山における上級商家の信仰と寺社参詣—安永期の沼野六兵衛を事例に—」、『和歌山地方史研究』77、和歌山地方史研究会

〈図録〉

2019.10.19『徳川頼宣と紀伊徳川家の名宝』和歌山県立博物館・和歌山市立博物館共同図録

小橋 勇介

〈図録〉

2019. 08. 24『雑賀衆と鷲ノ森遺跡—紀州の戦国—』
和歌山市立博物館特別展図録
(資料紹介)
2019. 12. 27「近世初期の念誓寺文書について—成
立期和歌山城下町に関する史料—」, 『研究紀
要』34号、和歌山市立博物館
2020. 3. 31「加太・向井家文書所収の葛城修験関係
史料(4)」, 『和歌山市史研究』48号、和歌山
市立博物館

額田 雅裕

- (著書)
2019. 9. 20「懐かしい街並みや風景」(共著), 小関
洋治監修『和歌山市の昭和』, 樹林社
2020. 3. 10「和歌山一町割と町名が残る御三家のお
膝元」, 野間晴雄・山近博義・矢野司郎編『地
図でみる城下町』, 海青社
2020. 3. 31「地理的環境」「堤防の分布と微地形」, 和
歌山井堰研究会編『紀ノ川流域堤防井堰等遺跡
調査報告書Ⅲ』, 和歌山井堰研究会
(論文)
2019. 12. 27「和歌山市地籍図目録Ⅲ(河南編2 旧
城下町)」, 和歌山市立博物館研究紀要34号
2020. 3. 31「和歌山平野における堤防遺跡の分布と
地形環境」, 高橋学教授退官記念号 立命館文
学666号

太田 宏一

- (著書)
2019. 9. 20「懐かしい街並みや風景」(共著), 小関
洋治監修『和歌山市の昭和』, 樹林社
2020. 3. 26「連射を可能にした合理的な発想 なぜ
雑賀衆は鉄砲を使いこなせたのか」, 『戦国時代
を読み解く新視点』PHP新書, PHP研究所
(新聞)
2019. 4. 15. ~2020. 3. 15
「戦国期の雑賀と鉄砲」第2話~第12話, 和
歌山県保険医新聞連載

高橋 克伸

- (論文)
2020. 3. 31『郭家住宅報告書』(分担執筆), 和歌
山県教育委員会

○職員の教育普及活動

佐藤 顕

2019. 11. 2 講演会「徳川頼宣と領内の寺社」(於:
和歌山市立博物館)
2019. 12. 10 講義「学芸員の仕事」, 和歌山大学21
世紀ミュージアム学, 和歌山大学

小橋 勇介

2019. 5. 27 研究発表「紀伊国の林家文書の概要と
特徴」, 第1回林家文書研究会(於:早稲田大
学)
2019. 10. 20 講演「玉津島神社の歴史—中世期の
玉津島信仰の展開」, 玉津島保存会(於:玉津
島神社)
2020. 1. 21 案内「熊野街道と和佐の歴史」, 全日
本年金者組合和歌山市支部フィールドワーク
を楽しむ会

額田 雅裕

2018. 4. 20 案内「近世和歌山の海岸の整備と雑賀
崎漁村の変貌」, 和歌山歴史地理研究会 第15
回見学会(於:雑賀・雑賀崎地区)
2019. 6. 20 おでかけ歴史講座「城下町の風景と地
名」(於:高松連絡所)
2019. 9. 6 出前授業と校区探検「太田城水攻めに
ついて」太田小学校6年生(於:太田小学校, 太
田小学校区)
2019. 11. 5 おでかけ歴史講座「川永地区周辺の熊
野古道」(於:川永支所)
2019. 11. 11 おでかけ歴史講座「市堀川と城下町の
成り立ちについて」, 伏虎義務教育学校5年生

(於：和歌山市立博物館 常設展示室和歌山城
模型展示コーナー)

2018. 11. 30 案内「加太湊を歩く」, 和歌山歴史地
理研究会 第16回見学会 (於：加太地区)

2019. 12. 6 講演と巡検「古地図で歩く城下町わか
やま」, 和歌山県高等学校社会科研究協会 (於：
和歌山市立博物館, 雄湊・城北地区)

2020. 2. 21 日根荘ガイド養成講座「日根荘を地理
学・地誌学から学ぶ」, 泉佐野市 (於：泉佐野
市エブノ泉の森ホール)

2020. 3. 4 日根荘ガイド養成講座「モデルコースを
歩きましょう」, 泉佐野市 (於：泉佐野市日根
野地区)

太田 宏一

2019. 6. 29 博物館おでかけ歴史講座「岡崎の歴史
(文化) 概観」 (於：岡崎支所)

2019. 9. 19 博物館おでかけ歴史講座「戦国時代の
朝鮮半島との交流の歴史について」, ワイズメ
ンズクラブ国際協会和歌山クラブ (於：和歌山
YMCA)

2019. 11. 15 現地学習「むかしの和歌浦の名所とけ
しき」, 雑賀小学校 6 年生 (於：和歌浦一帯)

2019. 11. 21 博物館おでかけ歴史講座「和歌川 (内
川) の今昔物語」 (於：高松連絡所)

高橋 克伸

2019. 4. 19 「華岡青洲について」 (於：和歌山県立
医科大学)

2019. 9. 13 「今福の歴史について」 (於：今福地区
公民館)

4. 市史資料管理事業

平成4年度末に事業を完了した和歌山市史編纂事業の残務を引き継いだ事業である。主な業務は、『和歌山市史』残部の販売、他都市との交換市史の受入、市史編纂過程で蒐集した資料の保存と

整理、保存資料の活用方法の調査研究、『和歌山市史研究』の発行である。

令和元年度は、3本の史料翻刻を『和歌山市史研究』48号に掲載した。

5. 博物館基本計画 (素案) の作成

和歌山市立博物館は、開館以来、市民図書館、市民会館と隣接し、一つの文化ゾーンを形成してきた。周辺の環境としては、令和2年(2020)に南海電鉄和歌山市駅に新市民図書館がオープンし、令和3年度には伏虎中学校跡地に市民会館が移転する予定となっている。また、和歌山市駅前原動機付自転車駐輪場跡地に作家・有吉佐和子氏の東京の邸宅を復元する計画もあり、新たな文化ゾーンが形成されることになる。

平成30年(2018)4月、博物館は組織改正により、教育委員会から市長部局(産業交流局)へ移管となり、さらに令和2年(2020)4月から博物館法の改正(令和元年6月7日施行)に伴い、補助執行であった教育委員会所管の博物館の事務も、市長部局(産業交流局)で管理・執行することとなる。令和元年(2019)7月には和歌山市文化芸術基本条例が施行されたことを受け、博物館においても他分野における施策との連携を図ることが求められている。

このような動きの中で、博物館には、これまで以上にまちづくりや観光等他分野との連携が求められ、周辺環境や状況の変化を受けて、今後の博物館の方向性を定めていくことが必要となる。博物館のあり方、指針を示す基本計画が未策定であったため、その機能を更に充実させ、市民により親しまれる博物館づくりを目指すべく、基本計画の策定作業に着手し、素案の作成をおこなった。

Ⅱ 収蔵資料概要

1. 購入資料概要

本館では計画的に和歌山の歴史、文化に関する資料を購入している。本年度は郷土史家で、多くの美術、歴史資料を収集した故田中敬忠氏の旧蔵資料20件21点を購入した。いずれも展覧会や研究に活用してく予定である。

田中敬忠氏旧蔵資料 20件21点

●美術工芸

- ・冷泉為村 和歌「和歌の浦友鶴の歌」 一幅
- ・桑山玉洲 墨蘭図巻 一卷
- ・祇園尚濂 白梅図 一幅
- ・祇園南海 七絶詩書 一幅
- ・堀端晴野・加納諸平画賛「大黒天図」 一幅
- ・狩野興以 狗子仏性図 一幅
- ・松尾塊亭 三僊之図 一幅
- ・浪蒔絵簾貝香合 一合
- ・松木彫鶴香合 一合
- ・木村左内 弓 銘 明月・動風 二張
- ・鷹場札・餌差札・鷹匠之鈴 一組
- ・了入 分銅型香合 一合
- ・菊香合 一合
- ・和歌御宮行列絵巻 一卷
- ・三楽園焼 更紗手菓子器 一枚

●歴史

- ・畔田翠山 鉄刀木覚書 一幅
- ・徳川重倫 書状 牧野越中守宛 一幅
- ・近衛信尹 書状 三浦長門守宛 一幅
- ・太田道知 多田満仲廟文 一幅
- ・桃洞遺筆板木 一面

2. 受贈資料概要

本年度は22名の方から資料をご寄贈いただいた。資料を大切に保存し、今後の展示や研究に活

用したい。

- をのえ足袋 1件 久村芳子氏
- 紀州藩士倉地家関係資料 12件 伊藤寿実氏
- 山本家文書 一括 山本真理子氏
- 猪飼家旧蔵文書など 181件 松田智子氏
- 高松近傍地図 1件 溝端佳則氏
- 山水図など 5件 米田明彦氏
- 證治準繩など 565件 横山申彦氏
- 新説日本史下巻など 2件 野上哲司氏
- 和田仙一郎コレクション 8件 和田滋氏
- 中畑艸人関係資料 13件 中畑未人氏
- 中畑艸人 栄光の騎手など7件 平井利明氏
- 多紀治子・多紀仁之助関係資料 933件
山田俊治氏・谷垣内淳氏・谷垣内淳二氏・中館幸子氏・佐藤和子氏
- 狩野絃信 水の暦など2件 狩野絃信氏
- 狩野派水墨雲龍図屏風など58件 大西勝氏
- 看板など2件 櫻井秀樹氏
- 写真アルバムなど2件 石橋守氏
- 砧など2件 宮所勇氏
- 菓子木型など2件 北道宣氏

3. 資料の貸出

本年度の資料の館外貸出（展覧会への出陳等）は、49件であった。貸出先、展覧会名称、会期、貸出資料等は以下のとおりである。

●わかやま歴史館

常設展（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

- ・「陸奥宗光書簡 由良守応宛」はじめ 28件
企画展「徳川頼宣と和歌山城」
（令和元年7月27日～9月29日）
- ・龍祖御進軍図巻（複製） 1巻
- ・大君言行録 2冊
企画展「紀州徳川家の参勤交代」
（令和元年11月2日～12月8日）
- ・紀伊公岡崎駅御通行行列図巻 1巻
- ・鷹狩用陣笠（冬用） 1頭

●東京都江戸東京博物館

特別展「江戸のスポーツと東京オリンピック」

(令和元年7月6日～8月25日)

- ・赤坂御庭園画帖 1帖
- ・打毬図 1巻
- ・田中家本 調馬図屏風 六曲一隻

●京都府立堂本印象美術館

特別企画展「堂本印象美術館に川端龍子がやってくる」(令和元年10月12日～11月24日)

- ・川端龍子「南飛図」 二曲一双

●和歌山県立博物館

企画展「高野山麓の西端で—貴志川流域の文化財—」(令和元年6月8日～7月7日)

- ・那賀郡貴志組絵図 1舗

企画展「真景図—旅する画家が見た風景—」

(令和元年8月31日～10月6日)

- ・絵事鄙言 1冊
- ・玉藻詩集画稿 5枚
- ・臺山歩歴略記 1巻
- ・熊野図巻 1巻

●和歌山県

外交史料展「外交史料と近代日本のあゆみ」

(令和元年11月2日～12月15日)

- ・陸奥宗光上書 1冊
- ・陸奥宗光書簡 津田出宛 1通
- ・陸奥宗光書簡 児玉仲児宛 1通

●和歌山大学紀州経済史文化史研究所

特別展「七宝瀧寺と志一上人—葛城修験二十八宿の世界—」(令和元年10月31日～12月13日)

- ・葛城峯中記 2冊

●栃木県立博物館

企画展「偉大なる無名画家 小泉斐」

(令和2年4月25日～6月14日)

- ・木村兼葭堂書状 玉洲宛 寛政7年6月8日付 1通

●広島県立美術館、水野美術館

「生誕135年記念 川端龍子展」

(広島県立美術館：令和2年4月2日～5月31日)

水野美術館 (令和2年7月23日～9月22日)

- ・川端龍子「南飛図」 二曲一双

●和歌山県立近代美術館

企画展「もようづくし」

(令和2年4月25日～6月28日)

- ・駿河屋菓子絵手本 8点
- ・駿河屋菓子木型 17点

4. 映像資料概要

本館の常設展示室には、原始・古代・中世・近世・近代の各コーナーに5台のビデオ放映器(VTD)と、民俗コーナーに1台のビデオプロジェクターを設置している。

VTDは、シリコンディスク使用のパソコンとタッチパネル式の19インチモニターを採用し、モニター画面を手で触れることで映像を選択できるようになっている。

ビデオプロジェクターもシリコンディスク仕様のパソコンと100インチの平面スクリーンを設置し、照光式のボタン式スイッチで映像を選択できるようになっている。

映像については、それぞれ3分前後の内容を数本収録し、視覚的な紹介をしている。

- ・常設展示室各コーナー収録番組

原始：弥生時代の太田・黒田遺跡

太田・黒田の銅鐸

大谷古墳の発掘

古代：奈良時代のくらし—木簡はかたる—

古代和歌山の仏教

万葉集—笠朝臣金村の長歌—

大同寺の蔵骨器

中世：棕田(笠田)荘の荘園絵図

中世の遺跡をたずねて

津田監物と鉄砲

雑賀鉢の謎

絵画に見る太田城水責め

近世：あるくみる城下町

和歌山城の門
八代将軍徳川吉宗ーその武と雅ー
城下町和歌山の文化
紀州藩と茶道
紀州の黒船ディアナ号
近代：昭和初年への旅立ち
ーその頃の和歌山はー
戦争で子どもたちまで勤労働員
和歌山大空襲
和歌山城の再建
民俗：雛流し 淡島神社
和歌祭 紀州東照宮
茅の輪祭 伊太祁曾神社
団七踊 岡崎団七踊保存会
木ノ本の獅子舞 木本八幡宮ー主催

Ⅲ 令和2年度当初予算

歳入

(単位 千円)

目	本年度	前年度	比較	節	
				区 分	金 額
総務使用料	359	1,205	△846	博 物 館 使 用 料	359
基金収入	2	2	0	博 物 館 振 興 基 金 収 入	2
雑入	1,696	2,664	△968	博 物 館 図 録 等 販 売 収 入	1,696
総務費交付金	765	5,901	△5,136	文 化 ス ポ ー ツ 費 交 付 金	765
総務債	0	0	0	文 化 ス ポ ー ツ 債	0

歳出

(単位 千円)

目	本年度	前年度	比較	本年度の財源内訳			一般財源	節	
				特定財源				区 分	金 額
				国県 支出金	地方債	その他			
11 博物館費	82,296	85,419	△3,123	765		2,057	79,474	1 報 酬 料 2 給 料 3 職 員 手 当 等 4 共 済 費 8 報 償 費 9 旅 費 11 需 用 費 12 役 務 費 13 委 託 料 14 使 用 料 及 び 借 料 18 備 品 購 入 費 負 担 金 , 補 19 助 及 び 交 付 金 25 積 立 金 27 公 課 費	94 23,502 12,676 7,840 68 227 11,177 1,979 22,100 510 2,056 51 2 14

Ⅳ 資料

○入館者の動向

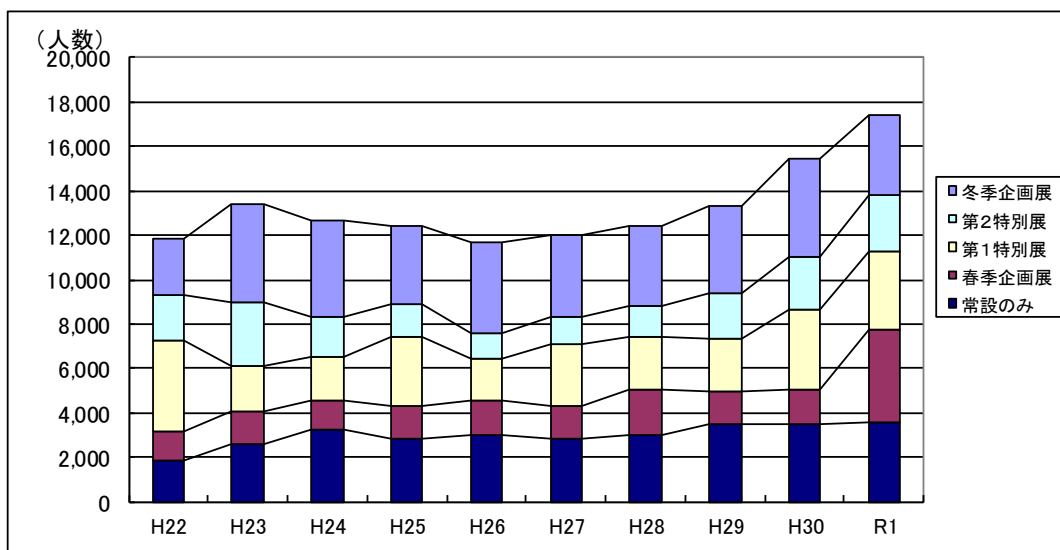
(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

	開館 日数	個 人			団 体・まちなか			無 料 入 館 者 (含 団 体)	合 計	1日 平均	備 考	
		一般/大	小中高	小計	一般/大	まちなか	小計					
平成31年	4月	26	68	0	68	0	8	8	390	466	17.9	春季企画展
	5月	27	551	0	551	27	19	46	1,100	1,697	62.9	4/27～6/9
	6月	20	271	0	271	0	3	3	643	917	45.9	夏季企画展
	7月	26	225	0	225	0	12	12	1,086	1,323	50.9	7/13～8/12
	8月	27	407	0	407	0	11	11	1,245	1,663	61.6	夏季特別展
	9月	25	425	0	425	0	18	18	1,441	1,884	75.4	8/24～9/29
	10月	26	262	0	262	53	23	76	1,741	2,079	80.0	秋季特別展
	11月	26	375	2	377	0	58	58	2,305	2,740	105.4	10/19～11/24
	12月	24	126	0	126	25	1	26	400	552	23.0	
令和2年	1月	25	185	0	185	0	1	1	1,851	2,037	81.5	冬季企画展
	2月	26	190	0	190	0	2	2	1,392	1,584	60.9	1/7～3/1
	3月	26	102	0	102	0	1	1	352	455	17.5	
合計		304	3,187	2	3,189	105	157	262	13,946	17,397	57.2	

過去10年間の入館者数の変化

	常設のみ	春季企画展	第1特別展	第2特別展	冬季企画展	総入館者数
平成22年		紀州藩の士族たち	紀州徳川家のお姫様	よみがえる和歌山の縄文世界	歴史を語る道具たち	
	1,831	1,335	4,131	2,001	2,590	11,888
平成23年		心の旅・全国の郷土玩具展	祇園南海とその時代	川端龍子と和歌山	歴史を語る道具たち	
	2,589	1,499	2,067	2,837	4,427	13,419
平成24年		新収蔵庫展 博物館のたからもの	ヘンリー杉本とその時代	華岡青洲の医塾 春林軒と合水堂	歴史を語る道具たち	
	3,226	1,319	1,998	1,805	4,301	12,649
平成25年		「博物館へ花見に行こう」	「市電が走っていた街」	「海人の世界」	歴史を語る道具たち	
	2,851	1,496	3,093	1,474	3,487	12,401
平成26年		わかやま歴史再発見	江戸時代を観光しよう	荘園の景観と絵図	歴史を語る道具たち	
	3,025	1,525	1,881	1,175	4,062	11,668
平成27年		古文書から探れ！	表千家と紀州徳川家	近代スポーツと国民体育大会	歴史を語る道具たち	
	2,806	1,525	2,787	1,223	3,661	12,002
平成28年		徳川吉宗と紀州の明君	城下町和歌山の絵師たち	玉津島一衣通姫と三十六歌仙一	歴史を語る道具たち	
	3,004	2,062	2,398	1,336	3,572	12,372
平成29年		紀州の風景ー和歌の浦を中心にー	幕末の紀州藩	美尽し善極めるー駿河屋の菓子木型ー	歴史を語る道具たち	
	3,525	1,434	2,424	1,983	3,967	13,333
平成30年		和歌浦には名所がござる	お殿様の宝箱ー南葵文庫と紀州徳川家伝来の美術ー	和歌山城再発見	歴史を語る道具たち	
	3,520	1,513	3,594	2,420	4,432	15,479
令和元年		写真にみる和歌山市の歩み/中畑紳人	徳川頼宣と紀伊徳川家の名宝	雑賀衆と鷲ノ森遺跡-紀州の戦国-	歴史を語る道具たち	
	3,589	※4186	3,527	2,479	3,616	17,397

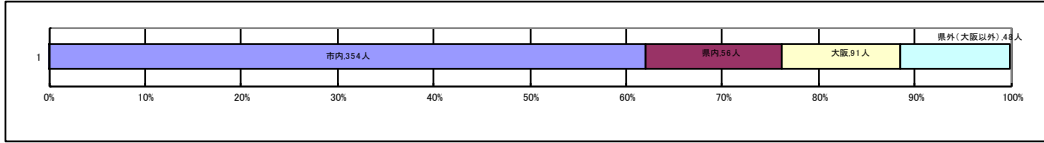
※春季企画展と夏季企画展の合計人数



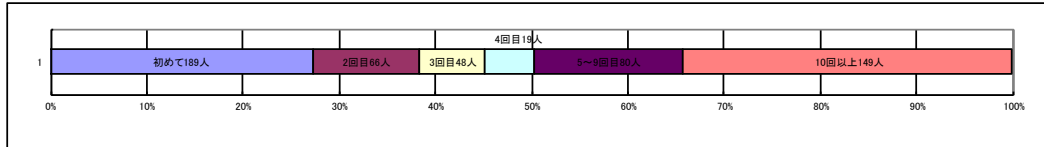
○アンケートの集計

令和元年度の2回の特別展開催時に回収されたアンケートの集計結果を提示する。
期間中の総入館者は6,006名、アンケート数は423通(回収率:7.0%)。

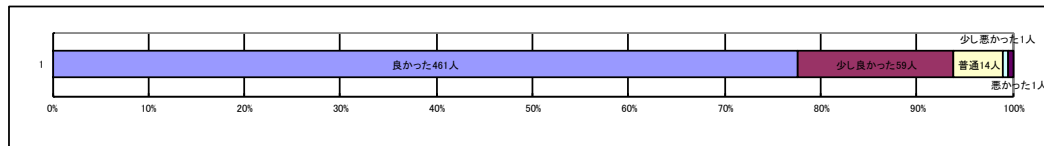
1. どちらから来られましたか？



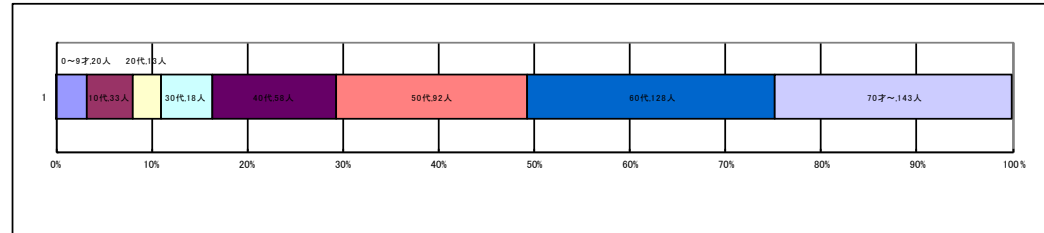
2. 来館は何回目ですか？



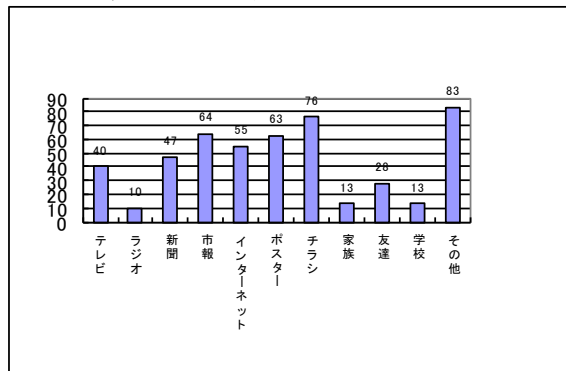
3. 展示はいかがでしたか？



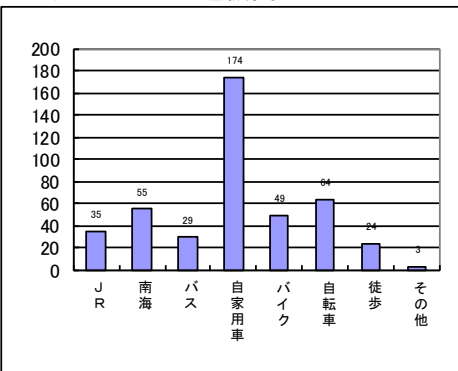
4. 年齢は？



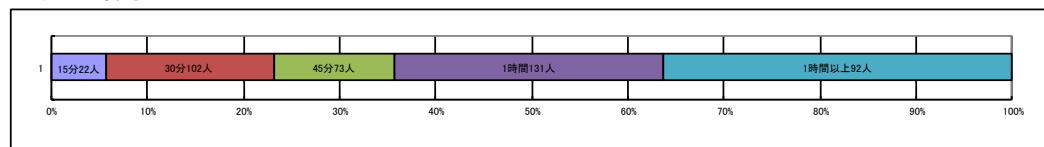
5. どのようにしてお知りになりましたか？



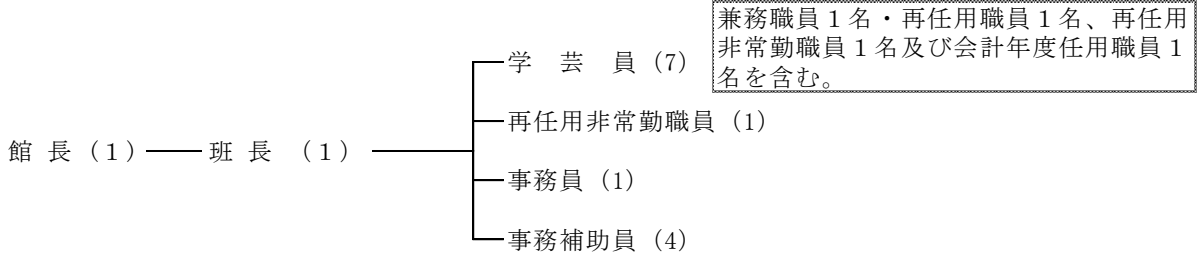
6. 利用された交通機関は？



7. 利用時間は？



○館機構（令和2年4月1日現在）



○博物館職員（令和2年4月1日現在）

- 館長 前田 敬彦（事務取扱）
- 班長 上田 宗敏（令和2.4.1着任）
- 学芸員 山下 奈津子
- 学芸員 佐藤 顕
- 学芸員 小橋 勇介
- 学芸員 清水 梨代（兼務職員）
- 学芸員 額田 雅裕（再任用職員）
- 学芸員 太田 宏一（再任用非常勤職員）
- 主事 小川 隆生（再任用非常勤職員）（令和2.4.1着任）
- 学芸員 泉 文子（会計年度任用職員）（令和2.4.1着任）
- 事務員 有村 彩子（会計年度任用職員）（令和2.4.1着任）
- 事務補助員 宇治田 良一
- 事務補助員 湯川 政美
- 事務補助員 浅山 静代
- 事務補助員 前田 竹三季

○退任職員

- 館長 近藤 壮（令和2.3.31退任）
- 学芸員 高橋 克伸（令和2.2.29退任）

○和歌山市立博物館協議会委員名簿

◎印 会長
○印 副会長
令和2年3月31日現在

	氏名	役職	備考
学校教育の 関係者	柏野 貴之	和歌山市立小学校長会会長	R元・7・26任命
	加藤 正彦	和歌山市立中学校長会会長	R元・7・26任命
社会教育の 関係者	森本 光子	和歌山文化協会 会長	H30・12・18再任
	南 正晃	和歌山陸上競技協会 専務理事	H30・12・18再任
	堰本 信子	和歌山市婦人団体連絡協議会 会長	H30・12・18再任
学識経験 のある者	上村 雅洋	和歌山大学経済学部名誉教授	H30・12・18再任
	熊谷 幸治	日本放送協会和歌山放送局局長	R元・7・26任命
	島津 俊之	和歌山大学教育学部教授	H30・12・18再任
	高橋 隆博	関西大学名誉教授	H30・12・18再任
	○ 千森 督子	和歌山信愛女子短期大学教授	H30・12・18再任
	西本 昌弘	関西大学文学部教授	H30・12・18再任
	◎ 藤本 清二郎	和歌山大学名誉教授	H30・12・18再任

○和歌山市立博物館条例

昭和60年7月18日

条例第17号

改正 平成元年12月21日条例第66号

平成9年3月27日条例第18号

平成12年3月27日条例第24号

平成19年3月22日条例第13号

平成20年12月24日条例第68号

平成23年12月19日条例第40号

平成24年3月23日条例第23号

平成26年3月24日条例第48号

平成27年3月19日条例第31号

平成30年3月23日条例第6号

平成31年3月22日条例第32号

令和元年12月23日条例第39号

(設置)

第1条 本市は、郷土の歴史、文化遺産等に関する市民の理解と認識を深めるとともに、教育、学術及び文化の発展に寄与するため、博物館法（昭和26年法律第285号。以下「法」という。）第18条の規定に基づき、博物館を設置する。

(名称及び位置)

第2条 博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名称	位置
和歌山市立博物館	和歌山市湊本町3丁目2番地

(事業)

第3条 博物館は、法第3条第1項に定める事業その他必要な事業を行う。

(入館料)

第4条 常設展の入館料の額は、100円（20人以上の団体にあっては、1人につき80円）とす

る。

2 特別展の入館料の額は、2,090円とする。ただし、市長が特別の理由があると認めるときは、減額することができる。

3 第1項の規定にかかわらず、次に掲げる者の入館（常設展に係るものに限る。）は、無料とする。

(1) 学校（学校教育法（昭和22年法律第26号）第1条に規定する学校（大学及び高等専門学校（第4学年及び第5学年に限る。）を除く。）をいう。第4号において同じ。）に在学する学生、生徒、児童又は幼児（同号において「学生等」という。）

(2) 認定こども園（就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律（平成18年法律第77号。第4号において「認定こども園法」という。）第2条第6項に規定する認定こども園をいう。第5号において同じ。）の園児（以下この項において単に「園児」という。）

(3) 小学校就学前の者（第1号に規定する幼児及び園児を除く。）

(4) 学生等又は園児を教育課程に基づく教育活動又は保育に係る活動において引率する当該学生等が在学する学校又は当該園児が在籍する幼保連携型認定こども園（認定こども園法第2条第7項に規定する幼保連携型認定こども園をいう。次号において同じ。）の教員（学校教育法第7条（認定こども園法第26条において準用する場合を含む。）に規定する教員をいう。）

(5) 保育所に入所している児童又は園児を保

育に係る活動において引率する当該児童が入所している保育所の保育士又は当該園児が在籍する認定こども園（幼保連携型認定こども園を除く。）の保育に従事する職員

4 入館料は、前納しなければならない。

（入館料の減免）

第5条 市長は、特別の理由があると認めるときは、入館料を減額し、又は免除することができる。

（資料の特別使用）

第6条 博物館資料について、刊行物に掲載し、又は展示することを目的として、撮影し、若しくは複写し、又は博物館資料に係る写真原板等の貸与若しくは画像等の提供を受けること（以下「特別使用」という。）をしようとする者は、あらかじめ市長に申請し、その許可を受けなければならない。

2 市長は、次の各号のいずれかに該当するときは、前項の許可をしない。

- (1) 博物館資料の保全上支障があるとき。
- (2) 博物館の管理上支障があるとき。
- (3) 特別使用に係る博物館資料が寄託されたものである場合に、前項の規定による申請をする者（次号において「申請者」という。）が当該博物館資料を寄託した者の同意を得ていないとき。
- (4) 特別使用に係る博物館資料に著作権者がある場合に、申請者が当該著作権者の同意を得ていないとき。
- (5) その他市長が不適当と認めるとき。

3 市長は、第1項の許可に必要な条件を付することができる。

4 第1項の許可を受けた者（次条において「特別

使用者」という。）は、別表に定める額の使用料（以下「特別使用料」という。）を前納しなければならない。

5 市長は、学術研究その他の公益性の高い目的を達成するために特別使用をする必要があると認めるときは、特別使用料を免除することができる。

（特別使用の許可の取消し等）

第7条 市長は、特別使用者が前条第3項の規定により許可に付された条件に違反したときは、当該許可を取り消し、又は特別使用を制限し、若しくは停止させることができる。

（入館料等の不還付）

第8条 既納の入館料及び特別使用料は、還付しない。ただし、市長が特別の理由があると認めるときは、その全部又は一部を還付することができる。

（入館等の制限）

第9条 市長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して、入館を拒絶し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 他人に危害を及ぼし、又は他人の迷惑になるおそれがある者
 - (2) 他人に危害を及ぼし、又は他人の迷惑になるおそれがある物又は動物を携帯する者
 - (3) 建物又は附属設備若しくは備品（以下「建物等」という。）を損傷し、又は滅失するおそれがある者
 - (4) 次条の規定に違反した者
- （行為の禁止）

第10条 博物館においては、次に掲げる行為をしてはならない。

- (1) 火災、爆発その他危険を生ずるおそれが

ある行為をすること。

(2) 騒音又は大声を発し、暴力を用い、その他他人の迷惑になる行為をすること。

(3) 建物等を損傷し、若しくは滅失し、又はこれらのおそれがある行為をすること。

(4) 所定の場所以外の場所で飲食し、又は喫煙すること。

(5) その他管理上支障がある行為をすること。
(損害の賠償)

第11条 何人も、建物等を損傷し、又は滅失したときは、その損害を賠償しなければならない。

(博物館協議会の設置)

第12条 法第20条第1項の規定に基づき、和歌山市立博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(委員の任命の基準)

第13条 協議会の委員の任命は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちからこれを行うものとする。

(委員の定数)

第14条 委員の定数は、15人以内とする。

(委員の任期)

第15条 委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第16条 協議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

3 会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、副会長がその職務を代理する。

(会議)

第17条 協議会は、会長が招集し、会議の議長となる。

2 協議会は、必要に応じて開催するものとする。

3 会長は、協議会を招集しようとするときは、あらかじめ会議の日時、場所及び付議すべき事項を示して委員に通知しなければならない。ただし、急施を要する場合は、この限りでない。

4 協議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

5 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第18条 協議会の庶務は、産業交流局文化スポーツ部において処理する。

(規則への委任)

第19条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

この条例は、昭和60年11月1日から施行する。

附 則（平成元年12月21日）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平成9年3月27日）

この条例は、平成9年4月1日から施行する。

附 則（平成12年3月27日）

この条例は、平成12年4月1日から施行する。

附 則（平成19年3月22日）

この条例は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成20年12月24日）

この条例は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（平成23年12月19日）

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成24年3月23日）

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成26年3月24日）

1 この条例は、平成26年4月1日から施行する。

附 則（平成27年3月19日）

この条例は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（平成30年3月23日）

この条例は、平成30年4月1日から施行する。

附 則（平成31年3月22日）

1 この条例は、令和元年10月1日から施行する。

2 この条例による改正後の和歌山市立博物館条例別表の規定は、この条例の施行の日以後に許可をする特別使用に係る使用料について適用し、同日前に許可をした特別使用に係る使用料については、なお従前の例による。

附 則（令和元年12月23日）抄

1 この条例は、令和2年4月1日から施行する。
(経過措置)

3 この条例の施行の際現に前項の規定による改正前の和歌山市立博物館条例（以下「旧条例」という。）の規定により教育委員会がした処分その他の行為は、同項の規定による改正後の和歌山市立博物館条例（以下「新条例」という。）の相当規定により市長がした処分その他の行為とみなす。

4 この条例の施行の際現に旧条例の規定により教育委員会に対してされている申請その他の手続は、新条例の相当規定により市長に対してされた申請その他の手続とみなす。

5 この条例の施行の際現に旧条例の規定による和歌山市立博物館協議会（以下「旧協議会」という。）の委員である者は、この条例の施行の日に、市長が任命したものとみなす。この場合において、その者の任期は、新条例第15条第1項の規定にかかわらず、この条例の施行の日における旧協議会の委員としての任期の残任期間と同一の期間とする。

別表（第6条関係）

特別使用料

区分	単位	使用料
博物館資料の撮影又は複写 （博物館資料の貸与を伴うものを含む。）	1点1回	2,090円
博物館資料に係る写真原板の貸与	1枚1回	2,090円
博物館資料に係る画像情報を収録した光ディスク等の貸与	1画像1回	2,090円
博物館資料に係る写真の提供	1点1回	2,090円
博物館資料に係る画像情報の電磁的方法による提供	1画像1回	2,090円

備考 複数の物で構成されるものであっても、博物館資料を分類する上で1点として取り扱うものは、1点とする。

○和歌山市立博物館条例施行規則

令和2年4月1日

和歌山市規則第50号

(趣旨)

第1条 この規則は、和歌山市立博物館条例（昭和60年条例第17号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間等)

第2条 博物館の開館時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、入館は、午後4時30分までとする。

2 前項の規定にかかわらず、市長が必要と認めるときは、開館時間を変更することができる。

(休館日)

第3条 博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、市長が特に必要があると認めるときは、これを変更し、又は臨時に休館することができる。

(1) 月曜日（国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日に当たるときは、その翌日）

(2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日の翌日

(3) 12月29日から翌年1月3日まで

(入館料の納付)

第4条 条例第4条第1項又は第2項の規定により入館料を納めた者は、入館券（別記様式第1号）の交付を受けなければならない。

(特別展の入館料)

第5条 条例第4条第2項ただし書の規定により減額する場合における特別展の入館料の額は、特別展に要する費用の額その他の事情を考慮してその都度市長が定める。

(入館料の減免)

第6条 条例第5条に規定する特別の理由があるときは、次の各号に掲げる場合とし、同条の規定により減額する入館料の額又は免除は、当該各号に掲げる場合の区分に応じ、当該各号に定めるとおりとする。

(1) 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定により身体障害者手帳の交付を受けている者、療育手帳（知的障害者の福祉の充実を図るため、児童相談所又は知的障害者更生相談所において知的障害と判定された者に対して支給される手帳で、その者の障害の程度その他の事項の記載があるものをいう。次条において同じ。）の交付を受けている者又は精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条第2項の規定により精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及びそれらの者の介護人が介護のために入館するとき 免除

(2) 本市が発行する老人優待利用券の交付を受けている者が入館するとき 免除

(3) その他市長が特別の理由があると認めるとき市長が必要と認める額

(入館料の減免申請)

第7条 条例第5条の規定による入館料の減額又は免除を受けようとするときは、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、当該各号に定める書類を市長に提示（第3号にあっては、提出）しなければならない。

(1) 前条第1号に掲げる者 同号に規定する身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉

手帳

(2) 前条第2号に掲げる者 同号に規定する老人
優待利用券

(3) 前条第3号に該当する者 入館料減額・免除
申請書(別記様式第2号)

(特別使用許可の申請及び許可)

第8条 条例第6条第1項の規定により特別使用の
許可を受けようとする者は、博物館資料特別使用
許可申請書(別記様式第3号)を市長に提出しな
ければならない。この場合において、当該博物館
資料が寄託されたものであるときにあつては寄託
した者の承諾書の写しを、当該博物館資料に著作
権者がある場合にあつては当該著作権者の承諾書
の写しを添付しなければならない。

2 市長は、特別使用の許可をしたときは、博物館
資料特別使用許可書(別記様式第4号)を当該申
請者に交付する。

(特別使用料の免除申請)

第9条 条例第6条第5項の規定により特別使用料
の免除を受けようとする者は、前条第1項に規定
する申請の際に、博物館資料特別使用料免除申請
書(別記様式第5号)を市長に提出しなければな
らない。

(入館料の還付)

第10条 入館料を還付する場合における条例第8
条ただし書に規定する特別の理由があるときは、
次の各号に掲げるときとし、還付する入館料の額
は、当該各号に定める額とする。

(1) 天災地変その他入館しようとする者の責めに
帰することができない理由により入館できない
とき 全額

(2) その他市長が特別の理由があると認めるとき
市長が認める額

(特別使用料の還付)

第11条 特別使用料を還付する場合における条例
第8条ただし書に規定する特別の理由があるとき
は、次の各号に掲げるときとし、還付する特別使
用料の額は、当該各号に定める額とする。

(1) 特別使用者の責めに帰することができない理
由により特別使用ができないとき 全額

(2) その他市長が特別の理由があると認めるとき
市長が認める額

(管理上の支障がある行為)

第12条 条例第10条第5項に規定する管理上の
支障がある行為は、次の各号に定める行為とす
る。

(1) 展示している博物館資料(館長が特に指定し
たものを除く。)に触れる行為

(2) 許可を受けないで、展示している博物館資料
の模造、模写又は撮影をする行為

(3) 展示室でインク、墨汁等博物館資料を汚損す
るおそれのあるものを使用する行為

(4) 係員の指示に従わない行為

(博物館資料の整理)

第13条 収集した資料は、資料番号を付し、博物
館資料として整理するものとする。

(博物館資料の館外貸出し)

第14条 博物館資料は、館外貸出しを行わないも
のとする。ただし、学術上の調査研究等のために
使用され、かつ、取扱上の安全性が確保されると
認められるとき、又は特別使用のために必要と認
められるときは、この限りでない。

2 前項ただし書の規定により博物館資料の館外貸出しを受けようとする者は、博物館資料貸出許可申請書（別記様式第6号）を市長に提出し、その許可を受けなければならない。この場合において、博物館資料が寄託されたものであるときは、当該博物館資料を寄託した者の承諾書の写しを添付しなければならない。

3 市長は、前項の規定により博物館資料の館外貸出しを許可したときは、当該申請者に博物館資料貸出許可書（別記様式第7号）を交付する。

（雑則）

第15条 この規則で定めるもののほか必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

（別記様式第1号から第7号は省略する。）

令和元年度

和歌山市立博物館館報 35

令和2年5月15日発行

編 集 和歌山市立博物館

和歌山市湊本町3丁目2

TEL 073-423-0003

FAX 073-432-9040

発 行 和歌山市

和歌山市七番丁23